

第5学年 単元別学習内容一覧

◎ わくわく算数学習					
目 標				指導時数・時期	
○ 小数点以下の桁数の違う小数の加減計算について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して小数の加減計算についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。				1 時間 2 学期制：4 月上旬 3 学期制：4 月上旬	
評 価					
(知)・算数学習を進める手順や、ことばや図や式などを用いて考え、説明する仕方を知る。また、話し合いのよさなどを理解し、それらに必要な事柄を取り上げることができる。					
(思)・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりすることができる。					
(態)・学習の進め方に関心を持ち、話しあい活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	6～9	○小数の加法・減法の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。  ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	・小数点以下の桁数の違う小数の加減計算 ・学習の進め方、ノートのかき方	(思判表)小数点以下の桁数の違う小数の加減計算の方法を考えたり、ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》  (態度)学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。《ノート》

1 整数と小数					
目 標				指導時数・時期	
○ 整数や小数について、10 倍や 1/10 にしたとき的小数点の移動の仕方を考えることを通して、十進数の仕組みや表し方の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4 時間 2 学期制：4 月上旬～4 月中旬 3 学期制：4 月上旬～4 月中旬	
評 価					
(知)・小数も整数と同じ十進位取り記数法をもとにしていることを理解し、整数や小数を 10 倍、100 倍、1000 倍した数や、1/10、1/100、1/1000 にした数を求めることができる。					
(思)・十進数の仕組みや表し方に着目して、整数や小数を 10 倍、100 倍、1000 倍したり、1/10、1/100、1/1000 にしたりしたとき的小数点の移動の仕方を考えることができる。					
(態)・十進数の仕組みのよさに気づき、小数の仕組みや表し方について深く学ぼうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	248	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数」	
(課題設定)	1	10	○整数や小数の仕組みを考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・既習の数の見方のふりかえりと学習の動機づけ	(態度)整数や小数の仕組みや表し方に関心を持ち、これまでの学習と関連づけて取り組もうとしている。《観察》
		11	○小数点の位置に着目し、整数や小数を 10 倍、1/10 にしたときの表し方を考えることができる。	・10 倍や 1/10 にしたとき的小数点の移動	(思判表)小数点の位置に着目して、10 倍や 1/10 の数について考えている。《発言・観察》
	2	12	○10 倍、100 倍、1000 倍したとき的小数点の位置の移動について考え、数の仕組みを理解することができる。	・記数法の仕組みと 100 倍や 1000 倍したとき的小数点の移動	(思判表)10 倍したとき的小数点の位置の移り方をもとに、100 倍や 1000 倍したときの仕組みを考えている。《発言・ノート》 (知技)10 倍、100 倍、1000 倍したときの数の仕組みを理解している。《観察》
	3	13	○1/10、1/100、1/1000 にしたとき的小数点の位置の移動について考え、数の仕組みの理解を深めることができる。	・記数法仕組みと 1/100 や 1/1000 にしたとき的小数点の移動	(思判表)1/10 にしたとき的小数点の位置の移り方をもとに、1/100 や 1/1000 にしたときの仕組みを考えている。《発言・ノート》 (知技)1/10、1/100、1/1000 にしたときの数の仕組みを理解している。《観察》
学びのまとめ	4	14～15	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

2 体 積					
目 標				指導時数・時期	
○ 直方体や立方体の体積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、体積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9 時間	
				2 学期制：4 月中旬～4 月下旬	
評 価				3 学期制：4 月中旬～4 月下旬	
(知)・体積や容積の意味がわかり、単位「cm³」「m³」を知り、直方体や立方体の体積を求めることができる。 (思)・長方形や正方形の面積の求め方や公式をもとにして、直方体や立方体の体積の求め方や公式を考えたり、これを活用して簡単な複合図形の体積の求め方を工夫したりすることができる。 (態)・単位となる大きさの何個分としてももの大きさを数値化することのよさがわかり、進んでこれを活用しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	248	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「面積」	

(課題設定)	1	16	○直方体と立方体の大きさ比べを通して、体積について考えていくという単元の課題をつかむ。	・箱のかさ比べによる体積の表し方や求め方の動機づけ	(態度)面積の表し方をもとに、単位立方体を使って体積の表し方を考えようとしている。《発言・観察》
①直方体・立方体の体積		17	○体積の単位 $\text{cm}^3$ について知り、 $\text{cm}^3$ を使って体積を表すことができる。	・体積の単位 $\text{cm}^3$ を使った体積の表し方 《体積、 $\text{cm}^3$ 》	(知技)体積の単位 $\text{cm}^3$ の意味を理解し、それを使って体積を表すことができる。《発言・ノート》
	2	18～19	○直方体や立方体の体積を計算で求める方法を考え、公式を導くことができる。	・直方体と立方体の体積の求め方と求積公式	(思判表)縦、横、高さに着目して、 $1\text{cm}^3$ の立方体は何個分あるかを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)公式を用いて、直方体や立方体の体積を求めることができる。《ノート》
	3	20	○L 字型などの複合立体図形を分割したり、補完したりして、その体積を直方体の体積公式を使って求め、説明することができる。	・複合図形の体積の求め方	(思判表)複合立体図形の体積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
②大きな体積	4	21	○長さの単位に着目して、辺の長さが $\text{m}$ で表された直方体や立方体の体積を求めることができる。	・ $1\text{m}^3$ の意味と体積の表し方、 $\text{m}^3$ と $\text{cm}^3$ の関係、 $1\text{m}^3=1000000\text{cm}^3$ 《 $\text{m}^3$ 》	(思判表)辺の長さが $\text{m}$ で表された直方体や立方体の体積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)辺の長さが $\text{m}$ で表された直方体や立方体の体積を求めることができる。《発言・ノート》
③容積	5	22	○容積の意味を知り、その求め方を考えることができる。	・容積の意味と求め方、 $\text{L}$ と $\text{cm}^3$ の関係、 $1\text{L}=1000\text{cm}^3$ 《容積》	(思判表)内のりに着目して、容積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技) $1\text{L}=1000\text{cm}^3$ であることに気づく。《ノート》
	6	23	○ $1\text{m}^3$ の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその体積や容積を求めたりすることができる。	・ $1\text{m}^3$ づくり、身のまわりのおよその体積や容積	(態度) $1\text{m}^3$ の大きさの量感をとらえようとしている。《観察》 (知技)量感をもとに、適切な単位を選択できる。《ノート》
④体積の単位の関係	7	24	○単位の仕組みに着目して、長さ、面積、体積の単位の関係を考えることができる。	・長さの単位をもとにした面積や体積の単位の関係	(思判表)長さの単位の関係をもとに、面積や体積の単位の関係を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
●練習	8	25	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	9	26～27	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

3 比 例					
目 標				指導時数・時期	
○ 伴って変わる 2 つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して比例の意味を理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2 時間	
評 価				2 学期制：5 月上旬	
(知)・比例の意味を知り、簡単な場合についての比例の関係を理解することができる。				3 学期制：5 月上旬	
(思)・簡単な場合について、比例しているかどうかを判断することができる。					
(態)・伴って変わる 2 つの数量の関係に関心をもち、進んで表や図を使って考えたり、説明したりしようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	249	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「変わり方」	
(課題設定)	1	28	○レンガや植木鉢を積み重ねたときの高さの変わり方を考察することを通して、単元の課題をつかむ。	・伴って変わる 2 つの数量をみつけること、2 つの数量の関係を調べることの動機づけ	(思判表)比例するかどうかを判断し、その根拠についても考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
		29～30	○伴って変わる 2 つの数量の変わり方を調べて、比例する関係をとらえる。	・比例の定義、直方体の高さや体積の比例関係 《比例する》	(知技)簡単な場合について、比例の関係を理解している。《観察・ノート》
	2	31	○比例の定義をもとに、かけ算の式の意味をとらえ直すことができる。	・比例にもとづいたかけ算の意味の見直し、数直線図	(態度)比例関係をもとにして、かけ算の式の意味を考えようとしている。《発言・ノート》
			○数直線図について知る。		

＊ 復習					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	32～33	○既習事項の確認と持続	・復習	

## 4 小数のかけ算

目 標					指導時数・時期
○ 小数をかける計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のかけ算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 2 学期制：5 月中旬～5 月下旬 3 学期制：5 月中旬～5 月下旬
評 価					
(知)・小数の乗法の意味やその仕方を理解し、小数の乗法の計算ができる。また、小数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを知る。 (思)・小数の乗法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えることができる。 (態)・図を用いたり、小数の仕組みや計算のきまりを用いたりして、小数の乗法の意味とその計算の仕方を考えようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	249	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数×整数」	
①整数×小数	1	34	○生活場面から、小数をかけるかけ算について考えていくという単元の課題をつかむ。	・既習のふりかえりと小数をかける学習の動機づけ	(態度)整数の場合との違いに関心をもち、小数をかける計算について考えようとしている。《発言・観察》
		35	○(整数)×(帯小数)の場面を式に表し、乗法の意味について考え、理解することができる。	・(整数)×(帯小数)の立式とその根拠	(思判表)図を用いるなどして数量の関係に着目し、小数をかける式の意味を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	2	36～37	○(整数)×(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	・(整数)×(帯小数)の計算の仕方	(思判表)見通しを立てて、整数に小数をかける計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)整数に小数をかける問題で、式にかいて計算することができる。《ノート》
②小数×小数	3	38～39	○(整数)×(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。 ○被乗数と積の大小関係を調べ、乗数の大きさによることを理解する。	・(整数)×(純小数)の立式と計算の仕方 ・乗数と積の大きさの関係	(知技)整数に 1 より小さい小数をかける問題で、式にかいて計算することができる。《発言・ノート》 (思判表)乗数に着目し、被乗数と積の大小関係について考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)乗数をみて、被乗数と積の大小関係を判断できる。《発言・ノート》
	4	40	○(小数)×(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(小数)×(小数)の立式と計算の仕方	(思判表)これまでの計算をもとにして、(小数)×(小数)の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)×(小数)の計算の仕方を理解し、計算することができる。《ノート》
	5	41	○小数をかけるかけ算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)×(小数)の筆算の仕方、積の小数点の位置	(態度)これまでの計算をもとにして、(小数)×(小数)の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)×(小数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
●練習	6	42	○積の末尾の 0 を消したり、積に空位の 0 をつけたしたりする場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(小数)×(小数)で 0 の処理を含む筆算、×3.14 の筆算	(思判表)0 の処理や小数点の位置を論理的に考えたり、説明したりしている。《発言・観察》 (知技)小数のかけ算の計算について深く理解し、筆算で正しく計算することができる。《ノート・観察》
	7	43	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
	8	44～45	○辺の長さが小数の場合にも、面積や体積の求積公式が使えることを確かめることができる。	・辺の長さが小数值の場合の面積や体積の求積	(思判表)辺の長さが小数の場合にも求積公式が使えることを、論理立てて考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)辺の長さが小数の場合にも求積公式が使えることを理解し、適用している。《ノート》
③小数のかけ算を使って	9	46～47	○小数の場合にも分配法則や交換法則、結合法則が成り立つことを確認し、それらを適用して工夫して計算することができる。	・小数の計算の交換法則、結合法則、分配法則	(態度)必要性に気づき、小数の場合にも計算法則が成り立つかどうかを調べようとしている。《ノート》 (知技)計算法則を適用して、手際よく小数の計算をすることができる。《ノート》

④割合を表す小数	10	48～49	○割合が小数で表された場面で、小割合や比較量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用(第1,2用法)	(思判表)図や式を使って、2つの数量の割合を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合が小数で表された場合の比較量や割合を求めることができる。《ノート》
学びのまとめ	11	50～51	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

5 小数のわり算					
目 標				指導時数・時期	
○ 小数でわる計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のわり算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				14 時間	
評 価				2 学期制：6 月上旬～6 月下旬	
(知)・小数の除法の意味やその仕方を理解し、小数の除法の計算ができる。 (思)・小数の除法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えることができる。 (態)・図を用いたり、小数の仕組みや計算のきまりを用いたりして、小数の除法の意味とその計算の仕方を考えようとする。				3 学期制：6 月上旬～6 月下旬	
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数÷整数」	
①整数÷小数	1	52	○生活場面から、小数でわるわり算について考えていくという単元の課題をつかむ。	・既習のふりかえりと小数でわる学習の動機づけ	(態度)整数の場合との違いに関心を持ち、小数でわる計算について考えようとしている。《発言・観察》
		53	○(整数)÷(帯小数)の場面を式に表し、除法の意味について考え、理解することができる。	・(整数)÷(帯小数)の立式とその根拠	(思判表)図を用いるなどして数量の関係に着目し、小数でわる式の意味を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	2	54～55	○(整数)÷(帯小数)の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、理解することができる。	・(整数)÷(帯小数)の計算の仕方	(思判表)見通しを立てて、整数を小数でわる計算の仕方を考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)整数を小数でわる問題で、式にかいて計算することができる。《ノート》
②小数÷小数	3	56～57	○(整数)÷(純小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。 ○被除数と商の大小関係を調べ、除数の大きさによることを理解する。	・(整数)÷(純小数)の立式と計算の仕方 ・除数と商の大きさの関係	(知技)整数を 1 より小さい小数でわる問題で、式にかいて計算することができる。《発言・ノート》 (思判表)除数に着目し、被除数と商の大小関係について考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)除数をみて、被除数と商の大小関係を判断できる。《発言・ノート》
	4	58	○(小数)÷(小数)の場面を式に表し、その計算をすることができる。	・(小数)÷(小数)の立式と計算の仕方	(思判表)これまでの計算をもとにして、(小数)÷(小数)の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)÷(小数)の計算の仕方を理解し、計算することができる。《ノート》
	5	59	○小数でわるわり算の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)÷(小数)の筆算の仕方、商の小数点の位置	(態度)これまでの計算をもとにして、(小数)÷(小数)の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)÷(小数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	6	60	○被除数に空位の 0 をつけたしてわり進む場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(小数)÷(小数)でわり進む筆算、÷3.14 の筆算	(思判表)わり進むときの計算処理を順序立てて考えたり、説明したりしている。《発言・観察》 (知技)小数のわり算の計算について深く理解し、筆算で正しく計算することができる。《ノート・観察》
	7	61	○わり進む場合の筆算で、わり切れないときの商を概数で表すことができる。	・わり進む場合の筆算で、わり切れずに商を概数で表すこと	(知技)商を四捨五入して概数で表すことができる。《ノート》
●練習	8	62	○余りのあるわり算で、余りの大きさを正しく判断し、筆算で商と余りを求めることができる。	・商と余りを求める計算、余りの小数点の位置	(思判表)被除数と余りの関係をもとに、余りの大きさを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)余りのある小数のわり算の筆算ができる。《ノート》
	9	63	○学習内容を確実に身につける。	・練習	

③割合を表す小数	10	64～65	○割合や数量が小数で表された場面で、割合や比較量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用（第1, 2用法）	(思判表)図や式を使って、2つの数量の割合を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合や数量が小数で表された場合の割合や比較量を求めることができる。《ノート》
	11	66～67	○割合や数量が小数で表された場面で、基準量を求めることができる。	・小数倍の意味と適用（第3用法） ・コラム「文と図と式」	(思判表)図や式を使って、2つの数量の割合を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合や数量が小数で表された場合の基準量を求めることができる。《ノート》
	12	68～69	○ $a \times b \times c$ の場面で、何倍になるかに着目してまとめて考える考え方で解くことができる。	・ $a \times b \times c = d$ の場面で、 $a$ や $d$ を求めるのにまとめて考えて解く問題	(思判表)オペレータに着目し、「 $a$ の $b$ 倍の $c$ 倍」を「 $a$ の( $b \times c$ )倍」として考えている。《発言・ノート》
④計算の間の関係	13	70～71	○小数の加減や乗除についても、整数と同じ計算の間の関係が成り立つことを理解する。	・加法と減法、乗法と除法の相互関係	(態度)演算の関係に着目し、□を使った式の□を求める計算の仕方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)小数の加法と減法、乗法と除法の関係を理解している。《ノート》
学びのまとめ	14	72～73	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

6 合同な図形					
目 標				指導時数・時期	
○ 合同な図形や多角形の角の大きさについて、図形を重ね合わせる活動を通して合同の意味を理解し、合同な図形の性質や作図の仕方を考えたり多角形の角の大きさを調べたりすることを通して、平面図形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月上旬	
評 価					
(知)・合同の意味や性質を理解し、頂点、辺、角の対応をみつけて合同な図形を作図することができる。また、三角形や四角形の内角の和についても理解することができる。					
(思)・合同の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、合同な図形の作図や多角形の内角の和の求め方を通して形や大きさのきまり方を考えたりすることができる。					
(態)・身のまわりや既習の図形の見方に関心をもち、進んで合同な図形の性質調べや作図などに取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「三角形」 ・4 年「角とその大きさ」	
(課題設定)	1	74～75	○図形を重ね合わせる操作を通して、合同の意味を理解する。 ○合同な図形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・合同の意味 ・合同についての学習の動機づけ 《合同》	(態度)形と大きさに着目して、図形を重ねる操作に取り組もうとしている。《観察》 (知技)図形を重ねる操作を通して、合同の意味を理解している。《発言・観察》
①合同な図形	2	76～77	○合同な 2 つの図形の頂点、辺、角の対応を調べ、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解する。	・合同な図形の性質 《対応する頂点、辺、角》 ・方眼を使った合同な図形の作図	(知技)対応する頂点、辺、角を見つけ、大きさを調べることができる。《ノート》 (態度)頂点や辺の対応に着目し、合同な図形を方眼紙にかこうとしている。《観察・ノート》
	3	78	○長方形や平行四辺形、台形を対角線で分けてできた三角形を、合同の観点で考察し、図形についての理解を深める。	・長方形や平行四辺形、台形を対角線で分けて合同の観点で考察すること	(思判表)合同の意味にもとづいて、できた三角形が合同かどうかを考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)合同な図形を見つけることができる。《ノート・発言》
②合同な図形のかき方	4	79	・合同な三角形をかくための見通しを立て、いろいろなかき方を考えることができる。	・合同な三角形の作図の見通し（三角形の決定要素の考察）	(態度)三角形の構成要素に着目し、合同な三角形をかくために必要な事柄を考えようとしている。《観察》 (思判表)合同な三角形のいろいろなかき方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	5	80～81	○合同な三角形のかき方を理解し、3 つの方法で作図することができる。	・合同な三角形の作図	(知技)必要な辺の長さや角の大きさを測定し、合同な三角形をかくことができる。《観察》
	6	82	○合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考え、作図することができる。	・合同な四角形の作図	(思判表)合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

③三角形・四角形の角	7	83～84	○三角形の敷き詰めや角を集める操作を通して、三角形の3つの角の大きさの和が $180^{\circ}$ になることを理解する。	・三角形の内角の和が $180^{\circ}$ になること	(態度)三角形の内角の和に関心を持ち、そのきまりについて調べようとしている。《観察》 (知技)三角形の内角の和が $180^{\circ}$ になることを理解している。《発言・観察》
	8	85	○三角形の内角の和のきまりを適用して、様々な問題を解く。	・三角形の内角の和の適用題	(思判表)三角形の内角の和が $180^{\circ}$ であることをもとに、角の大きさの求め方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
	9	86～87	○三角形の内角の和が $180^{\circ}$ であることをもとに、四角形の内角の和をいろいろに考えて求めることができる。	・四角形の内角の和が $360^{\circ}$ になること	(思判表)三角形の内角の和が $180^{\circ}$ であることをもとに、四角形の内角の和の求め方をいろいろに考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)四角形の内角の和が $360^{\circ}$ であることを理解している。《発言・観察》
	10	88～89	○多角形について知り、三角形の内角の和が $180^{\circ}$ であることをもとに、多角形の内角の和について調べる。	・多角形の内角の和の求め方ときまり 《多角形》	(知技)三角形や四角形の内角の和をもとにして、多角形の内角の和を求めることができる。《ノート・観察》 (思判表)多角形の頂点を増やしたときの内角の和の変わり方のきまりに気づいている。《発言》
学びのまとめ	11	90～91	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

活 わくわく算数ひろば					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
思 人文字	1	92～93	○文字の形になるように一定の間隔で並んだ人の数と間の数の関係を図に着目して、問題を解く。	・人文字による植木算の問題	(思判表)人が並んだ形を、人数や間隔が変わらないように変形して単純化し、問題を解くことができる。《観察・ノート》
●どんな計算になるのかな	2	94～95	○根拠にもとづいて、小数のかけ算やわり算の演算決定をすることができる。	・小数の乗除計算の演算決定	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
●算数の自由研究	3	96～97	○「しきつめもよう」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・多角形の敷き詰め(多角形の内角による $360^{\circ}$ の構成) ・自由研究の進め方	(態度)多角形の敷き詰めにより意欲的に取り組み、敷き詰められるときの図形の特徴を見つけようとしている。《観察・発言》 (思判表)見通しをもちながら、敷き詰めの仕方を考えている。《観察》

＊ 復習					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	98～99	○既習事項の確認と持続	・復習	

7 整 数					
目 標					指導時数・時期
○ 整数の性質について、偶数・奇数や倍数・約数の意味を理解し、倍数や約数の求め方を考えたりそれらを使って問題解決したりすることを通して整数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10 時間 2 学期制：7 月中旬～9 月中旬 3 学期制：9 月上旬～9 月中旬
評 価					
(知)・偶数・奇数の意味や倍数・約数などの意味を理解し、整数の性質についての理解を深め、整数を偶数と奇数に類別したり、倍数・約数などを求めたりすることができる。 (思)・整数を偶数・奇数という観点から類別したり、倍数・約数という観点から考察したりすることができる。 (態)・偶数・奇数、及び、倍数・約数の意味をもとに、整数の性質を見いだそうとしたり、問題を解決しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「わり算」	
(課題設定)	1	100	○組分けの仕方を通して、単元の課題をつかむ。	・整数の性質を使った分類整理の動機づけ	(態度)整数の性質を利用した組分けの仕方に気づき、活用しようとしている。《観察・発言》
①偶数・奇数		101	○整数を偶数と奇数という観点から類別できることを理解する。	・偶数、奇数の意味 《偶数、奇数》	(知技)偶数・奇数の意味を理解している。《観察・ノート》
②倍数と公倍数	2	102	○倍数の意味を理解し、いろいろな数の倍数を調べる。	・倍数の意味 《倍数》	(知技)倍数の意味を理解し、倍数を見つけることができる。《観察・ノート》

	3	103	○公倍数や最小公倍数の意味を理解し、公倍数や最小公倍数について調べる。	・公倍数、最小公倍数の意味 《公倍数、最小公倍数》	(知技)公倍数、最小公倍数の意味を理解し、見つけることができる。《観察・ノート》 (思判表)公倍数が最小公倍数の倍数になっていることに気づいている。《発言・観察》
	4	104	○公倍数や最小公倍数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	・公倍数の見つけ方の工夫、3つの数の公倍数	(思判表)公倍数の意味や性質をもとに、公倍数の見つけ方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	5	105	○与えられた2つの数量の公倍数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	・公倍数を使った問題解決	(態度)公倍数が使えることに気づき、公倍数を使って問題を解こうとしている。《発言・ノート》
③約数と公約数	6	106	○約数の意味を理解し、いろいろな数の約数を求める。	・約数の意味 《約数》	(知技)約数の意味を理解し、約数を見つけることができる。《観察・ノート》
	7	107	○公約数や最大公約数の意味を理解し、公約数や最大公約数について調べる。	・公約数、最大公約数の意味 《公約数、最大公約数》	(知技)公約数、最大公約数の意味を理解し、見つけることができる。《観察・ノート》 (思判表)公約数が最大公倍数の約数になっていることに気づいている。《発言・観察》
	8	108	○公約数や最大公約数の見つけ方を考え、工夫して見つけることができる。	・公約数の見つけ方の工夫、3つの数の公約数	(思判表)公約数の意味や性質をもとに、公約数の見つけ方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	9	109	○与えられた2つの数量の公約数の意味に気づき、それをもとに問題を解決することができる。	・公約数を使った問題解決	(態度)公約数が使えることに気づき、公約数を使って問題を解こうとしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	10	110～111	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

8 分 数(1)					
目 標				指導時数・時期	
○ 分数について、分母が異なるときの比較や加減計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、約分や通分の意味を理解して処理できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9時間 2学期制：9月中旬～10月上旬 3学期制：9月下旬～10月上旬	
評 価					
(知)・分数の約分・通分について理解し、異分母分数の加減計算ができる。					
(思)・単位の考えに着目して、異分母分数の加法や減法の計算の仕方を考えることができる。					
(態)・進んで分数の性質を調べたり、いろいろな分数の加減計算に取り組もうとしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	251	○既習事項の理解を確認する。	・4年「分数」	
(課題設定)	1	112	○分数を組み合わせて1の大きさを つくることを通して、分数について 考えていくという単元の課題をつかむ。	・1の大きさづくりによる学習の動機づけ ・分数の数直線、等しい分数のつくり方	(態度)大きさの等しい分数のつくり方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)大きさの等しい分数をつくる ことができる。《ノート》
①等しい分数		113～114	○等しい分数のつくり方とその性質について理解する。		
	2	115	○等しい分数の性質をもとに、約分の意味とその仕方について理解する。	・約分の意味、約分の仕方 《約分する》	(知技)約分の意味を理解し、分数を約分することができる。《ノート》 (思判表)効率よく約分するには、分母と分子の最大公約数でわればよいことに気づいている。《発言・観察》
	3	116	○等しい分数の性質をもとに、通分の意味とその仕方について理解する。 ○異分母分数の大小比較ができる。	・通分の意味、通分の仕方 《通分する》	(知技)通分の意味を理解し、分数を通分することができる。《ノート》 (知技)異分母分数の大きさの比べ方を理解している。《観察・ノート》
	4	117	○通分の仕方について理解を深める。	・通分の仕方の工夫、3つの数の通分	(思判表)効率よく通分するには、分母を最小公倍数にすればよいことに気づいている。《発言・観察》
②分数のたし算・ひき算	5	118	○異分母分数の加減計算の仕方を考え、理解することができる。	・異分母分数の加減（約分なし）	(思判表)分母をそろえればよいことに気づき、計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)異分母分数の加減計算ができる。《ノート》
	6	119	○答えが約分できる場合や3口の場合の異分母分数の加減計算ができる。	・異分母分数の加減（約分あり） ・3つの分数の加減	(知技)約分して答えを求めることができる。《ノート》 (知技)3口の異分母分数の加減計算ができる。《ノート》
	7	120	○帯分数どうしの加減計算の仕方を考え、理解することができる。	・帯分数の加減	(知技)帯分数を含む異分母分数の加減計算ができる。《ノート》
●練習	8	121	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	9	122～123	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

思 図を使って考えよう					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、問題場면을図に表して同じものに着目して解法を考えることを通して、相殺や置換の考え方を 使って解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする 態度を養う。				2 時間 2 学期制：10 月上旬 3 学期制：10 月上旬	
評 価					
(知)・相殺や置換の考え方を理解することができる。					
(思)・数量の関係を図に整理し、同じものに目をつけて相殺や置換の考え方を 使って解決することができる。					
(態)・相殺や置換の考え方を 使って解く思考法のよさがわかり、進んで活用しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	124	○数量の関係を図に表し、共通部分 に着目して相殺の考え方を 使って問題を解くことができる。	・相殺の考え方を 用いて解く問題	(態度)2 つの場면을図に表して、同じ ところや違うところを見つけよう としている。《観察・ノート》 (思判表)2 つの場面の同じものに 着目し、それをさしひいて考 えている。《ノート・発言》
	2	125	○数量の関係を図に表し、共通部分 に着目して置換の考え方を 使って問題を解くことができる。	・置換の考え方を 用いて解く問題	(思判表)2 つの場面の同じものに 着目し、それをおきかえて考 えている。《ノート・発言》

＊ 復習					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	126～127	○既習事項の確認と持続	・復習	

9 面 積					
目 標				指導時数・時期	
○ 三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、面積を求めることができるようにしたり平面図形の見方・考え方を深めたりするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				13 時間 2 学期制：10 月中旬～11 月上旬 3 学期制：10 月中旬～11 月上旬	
評 価					
(知)・底辺と高さの意味を理解し、公式を用いるなどして三角形や四角形の面積を求めることができる。					
(思)・既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式をつくったりすることができる。					
(態)・既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積の求め方や公式を進んで見いだそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	251	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「面積」「垂直・平行と四角形」 ・5 年「合同な図形」	
(課題設定)	1	128	○直角三角形の面積の求め方を考えることができる。	・直角三角形の面積の求め方	(態度)四角形や三角形の図を見て、面積の求め方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)長方形や正方形に帰着させて、直角三角形の面積を求めることができる。《ノート・発言》 (思判表)面積の求められる図形に帰着させて、三角形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)三角形の面積の求め方をもとに求積に必要な事柄に気づき、公式をつくろうとしている。《発言・観察》 (知技)公式を使って、三角形の面積を求めることができる。《ノート》
①三角形の面積		129～130	○三角形などの面積について考えていくという単元の課題をつかむ。	・面積の学習の動機づけ	
	2	131	○三角形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	・鋭角三角形の面積の求め方	
	3	132～133	○三角形の求積公式を導く。	・三角形の求積公式 ・コラム「三角形の底辺と高さ」 《底辺、高さ》	
②平行四辺形の面積	4	134～135	○平行四辺形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。	・平行四辺形の面積の求め方	(思判表)面積の求められる図形に帰着させて、平行四辺形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	5	136～137	○平行四辺形の求積公式を導く。	・平行四辺形の求積公式 ・コラム「平行四辺形の面積の公式を使って」	(態度)平行四辺形の面積の求め方をもとに求積に必要な事柄に気づき、公式をつくろうとしている。《発言・観察》 (知技)公式を使って、平行四辺形の面積を求めることができる。《ノート》



	6	138～139	○高さが外にある場合の三角形や平行四辺形の面積の求め方を考え、求積公式が適用できることを理解する。	・高さが外にある三角形や平行四辺形の面積の求め方	(思判表)面積の求められる図形に帰着させて、高さが外にある場合の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)高さが外にある場合も求積公式が使えることを理解している。《観察・ノート》
③台形・ひし形の面積	7	140～141	○台形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。 ○台形の求積公式を導く。	・台形の面積の求め方と求積公式 ・コラム「三角形の面積の公式を使って」 《上底，下底》	(思判表)面積の求められる図形に帰着させて、台形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)公式を使って、台形の面積を求めることができる。《ノート》
	8	142	○ひし形の面積の求め方をいろいろに考えることができる。 ○ひし形の求積公式を導く。	・ひし形の面積の求め方と求積公式	(思判表)面積の求められる図形に帰着させて、ひし形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)公式を使って、ひし形の面積を求めることができる。《ノート》
●練習	9	143	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
④面積の求め方のくふう	10	144～145	○一般四角形の面積を三角形に分割して求めることができる。	・三角形分割による多角形の求積	(思判表)四角形を三角形に分割すればその面積が求められることに気づいている。《発言・ノート》
	11	146	○底辺の長さが等しく、高さも等しい三角形や平行四辺形は、面積も等しくなることを理解する。	・平行線にはさまれた平行四辺形や三角形の面積	(知技)底辺の長さが等しく、高さも等しい平行四辺形は面積が等しくなることを理解している。《発言・観察》 (思判表)底辺に対して平行に頂点を動かしても、三角形の面積は変わらないことに気づいている。《発言・ノート》
⑤面積の比例	12	147	○三角形の高さや底辺の長さを変えたとき面積の変わり方を調べる。	・三角形の高さと面積（底辺と面積）の比例関係	(知技)三角形の面積は、高さや底辺の長さに比例することを理解している。《発言・ノート》
学びのまとめ	13	148～149	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

10 平均とその利用					
目 標				指導時数・時期	
○ 平均について、その意味や求め方を理解し、いろいろな場面で平均を調べたり平均を使って考えたりすることを通して、その理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6 時間 2 学期制：11 月上旬～11 月中旬 3 学期制：11 月上旬～11 月中旬	
評 価					
(知)・平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、それをういて長さなどを概則したりすることができる。 (思)・平均の意味にもとづいて、部分の平均から、全体量の見積もり方を考えたり、全体の平均の求め方を考えたりすることができる。 (態)・平均を用いることのよさに気づき、進んで身近な事柄の考察や表現に用いようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数÷整数」	
(課題設定)	1	150	○生活場面で量をならして考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・ジュースづくりによる学習の動機づけ	(態度)数量の違いをならす数理的な処理の仕方を考えようとしている。《発言・観察》
①平均		151	○平均の意味や求め方について理解する。	・測定値の平均の意味とその求め方 《平均》	(知技)平均の意味を理解し、計算で求めることができる。《観察・ノート》
	2	152	○0 を含む場合の平均の求め方や平均が小数になる場合があることを理解する。	・測定値に 0 がある場合の平均、平均が小数値になる場合	(思判表)平均の意味をもとに、0 の扱いについて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	153	○いくつかの平均から全体を見積もる方法を理解する。	・部分の平均から全体を見積もること、身のまわりの平均	(知技)部分の平均を求め、それを使って全体の大きさを見積もることができる。《ノート》
	4	154	○いくつかの部分の平均から、部分をあわせた全体の平均を求める方法を理解する。	・部分の各平均から全体の平均を求めること	(知技)いくつかの部分の平均から、部分をあわせた全体の平均の求めることができる。《ノート》
②平均を使って	5	155	○測定値の誤差をなくす方法として平均を用いればよいことに気づき、それを活用する。	・1 歩の歩幅の平均を調べること ・コラム「平均の求め方の工夫」	(態度)測定値の誤差をなるべくなくす方法を考えようとしている。《観察・発言》 (思判表)歩幅などを調べる場合に、測定値の平均を用いるよさに気づき活用している。《観察・発言》
学びのまとめ	6	156～157	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

11 単位量あたりの大きさ					
目 標				指導時数・時期	
○ 混みぐあいなどについて、その比べ方や表し方を考えたり説明したりすることを通して単位量あたりの大きさを求めて比べることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4 時間	
				2 学期制：11 月中旬	
				3 学期制：11 月中旬	
評 価					
(知)・単位量あたりの大きさを求めたり、それを使って混みぐあいなどを比べたりすることができる。					
(思)・混みぐあいなどの異種の 2 量が関係する事柄の程度の比べ方を考え、単位量あたりの大きさを使って表したり、程度の大小を判断したりすることができる。					
(態)・単位量あたりの大きさを比較することのよさがわかり、進んで身のまわりの異種の 2 量が関係する事柄の程度を比べようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「小数÷整数」 ・5 年「小数のわり算」	
(課題設定)	1	158 159～160	○混みぐあいの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○単位量あたりの大きさを混みぐあいを比べることができる。	・混みぐあいを比べることによる学習の動機づけ ・異種の 2 量のそれぞれを単位とした比較	(態度)2 量の関係に着目して、混みぐあいを比べようとしている。《観察・発言》 (知技)単位量あたりの大きさを求めて、混みぐあいを比べることができる。《ノート》
	2	161	○数量の関係をもとに単位とするほうの量を決め、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。	・異種の 2 量の一方を単位とした比較	(思判表)2 量のうちのどちらを単位にするとわかりやすいかを考えている。《発言・ノート》
	3	162	○単位量あたりの大きさのよさに気づき、人口密度や燃費といったよく用いられる単位量あたりの大きさについて知る。	・人口密度や燃費などの身のまわりで使われる単位量 《人口密度》	(態度)単位量あたりの大きさのよさに気づき、身のまわりで活用されている場面に関心をもって取り組んでいる。《観察・発言》
学びのまとめ	4	163	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

12 分 数(2)					
目 標				指導時数・時期	
○ 分数について、商としての分数の意味を理解し、分数や小数・整数の関係を調べたり分数を使って割合の問題を解決したりすることを通して、分数の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5 時間 2 学期制：11 月中旬～11 月下旬 3 学期制：11 月中旬～11 月下旬	
評 価					
(知)・商としての分数の意味や、分数と小数・整数の関係について理解することができる。 (思)・分数の意味や表現に着目して、商を分数で表したり、分数と小数・整数の関係について考えたりすることができる。 (態)・分数のよさが分かり、進んで分数の性質を調べたり、分数のさまざまな意味をまとめたりしようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	・3, 4 年「分数」 ・5 年「分数(1)」	
(課題設定)	1	164	○わり算の場面における式と答えの表し方を通して、単元の課題をつかむ。 ○(整数)÷(整数)の商を分数で表せることを理解する。	・既習のふりかえりと分数の学習の動機づけ ・商としての分数の意味 (分数の第二義)	(思判表)(整数)÷(整数)と分数の意味とを関連づけて考えようとしている。《発言・観察》 (知技)商を分数で表すことができる。《発言・ノート》
①わり算と分数		165			
	2	166～167	○何倍かを表す数が分数になる場合があることを理解する。	・分数倍の意味 (第 1 用法)	(思判表)図や式を使って、2 つの数量の割合を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合を分数で求めることができる。《ノート》
②分数と小数・整数の関係	3	168	○分数を除法の商とみて、分数を小数で表すことができる。	・分数を小数で表すこと	(態度)分数は(分子)÷(分母)の商であるという見方を働かせ、分数を小数で表そうとしている。《発言・ノート》 (知技)分数を小数で表すことができる。《ノート》
	4	169	○整数・小数を分数で表す方法を考え、整数・小数と分数を数として統合的にとらえる。	・小数・整数を分数で表すこと	(知技)整数・小数を分数で表すことができる。《ノート》 (思判表)整数・小数と分数は表現方法の違いであることに気づき、数として統合的にとらえている。《発言・ノート》
学びのまとめ	5	170～171	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

13 割 合					
目 標				指導時数・時期	
○ 割合について、その意味や百分率などの表し方を理解し、割合を使った問題や割合が増減する問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9 時間 2 学期制：11 月下旬～12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～12 月中旬	
評 価					
(知)・割合の意味と表し方を理解し、百分率などを用いて数量の関係を正しくとらえて計算処理することができる。					
(思)・割合を用いて、数量の関係を考えたり、比較したりすることができる。また、割合の和や差、積を考えて問題を解くことができる。					
(態)・割合で考えたり比較したりすることのよさを知り、これを用いて数量の関係を判断しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「割合」 ・5 年「小数のかけ算」「小数のわり算」	
(課題設定)	1	172	○定員と比べて希望者が多いのはどれかを考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・定員をもとにして希望者を比べることによる学習の動機づけ	(態度)希望者が定員の何倍になっているかに着目して、比べようとしている。《発言・観察》
①割合		173	○割合の意味について理解し、割合を求めことができる。	・割合の意味、割合を求める問題 (第 1 用法) 《割合》	(知技)割合の意味について理解し、割合を求めたり割合で比較したりすることができる。《発言・ノート》
	2	174	○全体と部分、部分と部分という関係をとらえ、割合を求めることができる。	・全体に対する部分の割合、部分に対する部分の割合 (第 1 用法)	(思判表)図を使って考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合を求めることができる。《観察・ノート》
	3	175	○全体と部分という関係をとらえ、基準量と割合から比較量を求めることができる。	・比較量を求める問題 (第 2 用法)	(思判表)図を使って考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)比較量を求めることができる。《観察・ノート》
	4	176～177	○全体と部分という関係をとらえ、比較量と割合から基準量を求めることができる。	・基準量を求める問題 (第 3 用法) ・コラム「文と図と式」	(思判表)図を使って考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)基準量を求めることができる。《観察・ノート》
②百分率	5	178	○百分率について知り、百分率と小数倍との関係について理解する。 ○割合を求め、百分率で表すことができる。	・百分率の意味、小数と百分率の関係 《百分率，%，パーセント》	(知技)百分率の意味を理解している。《発言・ノート》 (知技)百分率で割合を求めることができる。《ノート》
	6	179	○百分率を使った問題で、基準量や比較量を求めることができる。	・百分率を使った問題	(知技)百分率を小数倍に置き換えて基準量や比較量を求めることができる。《観察・ノート》
③割合を使って	7	180	○百分率の増減が示された問題で、比較量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題 (第 2 用法)	(態度)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとして。《観察・ノート》 (知技)割合の和や差を考えて、比較量を求めることができる。《ノート》
	8	181	○百分率の増減が示された問題で、基準量を求めることができる。	・割合の和や差を考えて解く問題 (第 3 用法) ・コラム「消費税」	(思判表)割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合の和や差を考えて、基準量を求めることができる。《ノート》
学びのまとめ	9	182～183	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

思 表を使って考えよう(1)					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、数量の関係を表に整理してその増え方に着目して解法を考えることを通して、数の少ない場合から順に調べる考え方をを使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2 時間 2 学期制：12 月中旬 3 学期制：12 月中旬	
評 価					
(知)・伴って変わる 2 つの数量に着目し、それらの関係を表に整理することができる。 (思)・図や表をもとに考え、2 つの数量の間のきまりを見つけ出すことができる。また、「数の少ない場合から順に調べる」思考法のよさがわかり、これを活用して問題を解くことができる。 (態)・伴って変わる 2 つの数量をみつけ、それらの関係を表に整理して進んで調べようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	184	○紙を折ってできる長方形の数について、折った回数が 1 のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	・数の変化を表に整理してとらえ、変化の規則性を見つけて解く問題（等比数列）	(態度)数の変化に着目し、表を使って現象の規則性を見いだそうとしている。《観察・発言》 (知技)見つけたきまりを使って問題を解くことができる。《発言・ノート》

	2	185	○階段状に色板を並べるときの枚数について、段の数が 1 のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。	・数の変化を表に整理してとらえ、変化の規則性を見つけて解く問題（階差数列）	(思判表)数の変化に着目し、表に整理して現象の規則性を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
--	---	-----	---	---------------------------------------	---

活 わくわく算数ひろば					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●見積もりを使って	1	186	○ある数量以上の部分とそれ以下の部分を差し引いて結果を見積もり、判断することができる。	・相殺による見積もり	(思判表)ある数量との差を相殺して結果を見積もり、判断の基準とした数量をこえるかどうかを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
	2	187	○切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断することができる。	・切り上げや切り捨てによる見積もり	(思判表)切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断の基準とした数量をこえるかどうかを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》

＊ 復習					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	188～189	○既習事項の確認と持続	・復習	

14 円と正多角形					
目 標					指導時数・時期
○ 円と正多角形について、正多角形の構成や作図などの活動や円周の求め方を考えるといったことを通して、平面図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					7 時間 2 学期制：1 月中旬～1 月下旬 3 学期制：1 月中旬～1 月下旬
評 価					
(知)・正多角形の意味と性質を理解し、作図することができる。また、円周率の意味とその求め方を理解し、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。 (思)・円や正多角形の性質を活用して、正多角形の作図の仕方を考えることができる。また、直径と円周の関係を、見通しをもって帰納的に考えることができる。 (態)・円や正多角形に関心をもち、その性質について調べようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「円と球」 ・5 年「合同な図形」	
(課題設定)	1	190	○紙を折って正六角形をつくり、正多角形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・折り紙作業による学習の動機づけ ・正多角形の定義 《正多角形》	(知技)正多角形の意味を理解している。《ノート・活動》
①正多角形		191			
	2	192	○円の中心のまわりの角を等分して正多角形をかく。	・中心角を等分することによる正多角形の作図 ・身のまわりの正多角形	(態度)正六角形の性質に気づき、そのかき方を考えようとしている。《観察・ノート》 (知技)円をかくいてその中心角を等分すると、正多角形が作図できることを理解している。《観察・発言》
	3	193	○コンパスを使った正六角形の作図を通して、正六角形は合同な 6 つの正三角形で構成されることを知る。	・円周を等分することによる正六角形の作図、模様づくり	(思判表)円をかくいてその円周を 6 等分すると、正六角形が作図できるわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
(課題設定)	4	194	○直径の違う輪を 1 回転させて進む距離を比べることを通して、単元の課題をつかむ。 ○円周と直径の関係について調べ、円周率や円周を求める式について理解する。	・円の回転作業による学習の動機づけ ・円周と直径の関係、円周を求める式 《円周率》	(思判表)円とそれに内接する正六角形の周りの長さを比べ、円周が直径の 3 倍より少し大きいことを見いだしている。《ノート》 (知技)円周率の意味を知り、円周を求める式について理解している。《ノート》
②円周と直径		195～196			
	5	197	○円周率を用いて円周や直径を求めることができる。	・円周や直径を求める問題 ・身のまわりの円の円周や直径	(知技)円周を求める式を使って、円周や直径を求めることができる。《観察・ノート》 (態度)これまでの学習をいかして、身のまわりにある円の円周や直径を調べようとしている。《観察》
③円周と比例	6	198	○円の直径と円周の関係を表にかいて調べ、円周は直径に比例することを理解する。	・直径と円周の比例関係	(知技)円周は直径に比例することを理解している。《発言・ノート》
学びのまとめ	7	199	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

## 15 割合のグラフ

目 標				指導時数・時期	
○ 割合のグラフについて、帯グラフや円グラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6 時間 2 学期制：1 月下旬～2 月上旬 3 学期制：1 月下旬～2 月上旬	
評 価					
(知)・帯グラフや円グラフについて理解し、帯グラフや円グラフを用いて資料を整理することができる。また、統計的な問題解決の方法を理解することができる。					
(思)・帯グラフや円グラフをもとに適切に判断したり、集めた資料を整理するのに適切なグラフを選択したりすることができる。また、得られた結論について多面的に考えることができる。					
(態)・帯グラフや円グラフのよさや統計的な問題解決の方法を知り、身のまわりの事柄などを調べるときにそれをいかそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・5 年「割合」	
(課題設定)	1	200	○帯グラフや円グラフについて調べていくという単元の課題をつかむ。	・帯グラフや円グラフを知ることによる学習の動機づけ	(思判表)割合を表したグラフに関心をもち、その仕組みを調べようとしている。《観察・発言》
①帯グラフと円グラフ		201	○帯グラフと円グラフの仕組みを理解し、それらのグラフをよむことができる。	・帯グラフや円グラフのよみ方とその特徴 《帯グラフ、円グラフ》	(知技)帯グラフや円グラフの仕組みを理解し、よむことができる。《観察・発言》
	2	202～203	○帯グラフと円グラフをかく。	・帯グラフや円グラフのかき方	(知技)帯グラフと円グラフをかくことができる。《ノート》
	3	204～205	○複数のグラフから情報を適切によりとることができる。	・経年変化の帯グラフ、複数グラフを関連づけて考察すること ・身のまわりの帯グラフや円グラフ	(思判表)複数のグラフを関連づけて、どのようなことがわかるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
②帯グラフと円グラフを使って	4・5	206～207	○統計的な問題解決の方法について知り、身のまわりの課題解決にいかそうとする。	・統計的な問題解決の方法	(態度)課題意識をもって、一連の統計的な問題解決の方法について深く知ろうとしている。《観察・発言》
学びのまとめ	6	208～209	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	

## \* 復習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	210～211	○既習事項の確認と持続	・復習	

## 16 角柱と円柱

目 標					指導時数・時期
○ 角柱や円柱について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6 時間 2 学期制：2 月上旬～2 月中旬 3 学期制：2 月上旬～2 月中旬
評 価					
(知)・角柱や円柱の意味を知り、その特徴を調べて理解することができる。また、三角柱や円柱の見取図や展開図をかくことができる。					
(思)・角柱や円柱の構成要素に着目して、分析的に特徴を考えることができる。また、見取図や展開図のかき方を考えることができる。					
(態)・角柱や円柱の特徴に関心をもち、進んでその特徴を調べたり、見取図や展開図をかこうしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「直方体と立方体」	
(課題設定)	1	212～213	○いろいろな箱を観察することを通して、角柱や円柱について調べていくという単元の課題をつかむ。	・立体物を観察することによる学習の動機づけ ・立体の概念、角柱と円柱の弁別 《立体、角柱、円柱》	(態度)面の形に着目し、立体を仲間分けしようとしている。《発言・観察》 (知技)角柱や円柱の意味を理解している。《ノート・観察》
①角柱と円柱	2	214～215	○底面や側面の形、それらの位置関係を調べることを通して、角柱、円柱について理解する。	・角柱や円柱の性質 《底面、側面、曲面》	(思判表)構成要素の位置関係に着目して、角柱や円柱について調べている。《発言・観察》 (知技)角柱の底面、側面、頂点、辺の数を調べることができる。《発言・ノート》
	3	216	○角柱や円柱の見取図をかくことができる。	・角柱と円柱の見取図 ・身のまわりの角柱や円柱	(知技)角柱や円柱の見取図をかくことができる。《観察・ノート》
②見取図とてん開図	4	217	○角柱の展開図のかき方を理解し、展開図を組み立てて角柱をつくることができる。	・角柱の展開図	(思判表)面の位置関係に着目して、角柱の展開図のかき方を考えている。《発言・観察》 (知技)角柱の展開図をかいて、組み立てることができる。《観察》

	5	218	○円柱の展開図のかき方を理解し、それを組み立てて円柱をつくることができる。	・円柱の展開図	(思判表)側面の形に着目して、円の展開図のかき方を考えている。《発言・観察》 (知技)円柱の展開図をかいて、組み立てることができる。《観察》
学びのまとめ	6	219	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

17 速 さ					
目 標				指導時数・時期	
○ 速さについて、その比べ方や表し方を理解し、いろいろな速さに関する問題を解決することを通して、速さ・道のり・時間の関係の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6 時間 2 学期制：2 月中旬～2 月下旬 3 学期制：2 月中旬～2 月下旬	
評 価					
(知)・速さの意味について理解し、速さを時速、分速、秒速などの単位を用いて表したり、比べたりすることができる。 (思)・単位量あたりの考え方をういて、道のりと時間の関係をもとに速さを考えたり、道のりや時間の求め方を考えたりすることができる。 (態)・単位量あたりの考え方をういて、進んで速さ・道のり・時間の関係を調べようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・5 年「単位量あたりの大きさ」	
	1	220 221	○時間と道のりの関係として速さがとらえられることを知り、単元の課題をつかむ。 ○単位量あたりの大きさを使って、速さを比べることができる。	・速さの意味と学習の動機づけ ・速さの比べ方	(態度)生活経験をもとに速さの意味をとらえ、それを数理的に表す方法を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)1 秒あたりの道のりや 1m あたりの時間を求め、速さを比べることができる。《発言・ノート》
	2	222	○速さの表し方を理解し、時間の単位に応じて適切に表すことができる。	・速さを求める問題 《時速、分速、秒速》	(知技)速さは単位時間あたりの道のりで表されることを理解し、道のりと時間から速さを求めることができる。《発言・ノート》
	3	223	○速さと時間から、その道のりを求めることができる。	・道のりを求める問題	(思判表)速さの意味をもとに、道のりの求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)道のりを求めることができる。《ノート》
	4	224	○道のりと速さから、その時間を求めることができる。	・時間を求める問題	(思判表)速さの意味をもとに、時間の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)時間を求めることができる。《ノート》
	5	225	○時速と分速と秒速との相互の関係を理解し、いろいろな速さを比べることができる。	・時速・分速・秒速の関係	(思判表)速さを比べるには、時間の単位をそろえる必要があることに気づいている。《発言・ノート》 (知技)時速、分速、秒速の関係を理解している。《ノート・発言》
学びのまとめ	6	226～227	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題 ・コラム「光の速さ」	

18 変わり方					
目 標				指導時数・時期	
○ 伴って変わる 2 つの数量について、その関係を○や△を使って式に表したり表に整理して変わり方を調べたりすることを通して、変化の特徴をとらえたり比例するかどうかを判断したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				3 時間 2 学期制：2 月下旬～3 月上旬 3 学期制：2 月下旬～3 月上旬	
評 価					
(知)・伴って変わる 2 つの数量の関係を、○や△を使って式に表したり、変わり方を表にかいて調べたりすることができる。 (思)・伴って変わる 2 つの数量を見つけ、その関係を式や表を用いて考えることができる。また、その関係が比例するかどうかを判断し、説明することができる。 (態)・進んで伴って変わる 2 つの数量をみつけようしたり、その関係や変化を式や表を用いて調べようしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ (課題設定)	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「変わり方」 ・5 年「比例」	
	1	228 229	○日常場面の変化の様子をとらえることを通して、単元の課題をつかむ。 ○差一定の 2 量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	・伴って変わる 2 つの数量を見つめることによる学習の動機づけ ・ $y=x+a$ となる関係についての考察	(態度)数量の変化や関係に着目して、身のまわりの事象をとらえようとしている。《発言・観察》 (知技)数量の関係を、○や△を使って式に表したり、表を使って調べたりすることができる。《ノート》

2	230～231	○比例する 2 量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>y=a \times x</math> となる関係についての考察</li> <li>・道のりと時間の比例関係</li> </ul>	(知技)数量の関係を○や△を使って式に表すことができる。《ノート》 (思判表)表を使って変わり方を調べ、2 量が比例していることに気づき、その根拠を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
3	232～233	○やや複雑な 2 量の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>y=a \times x + b</math> となる関係についての考察</li> <li>・コラム「多角形の頂点の数と角の大きさの和の関係」</li> </ul>	(知技)数量の関係を○や△を使って式に表すことができる。《ノート》 (思判表)表を使って変わり方を調べ、2 量が比例していないことに気づき、その根拠を考えたり説明したりしている。《発言・観察》

思 表を使って考えよう(2)					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、数量の変化を表に整理してその和や差に着目して解法を考えることを通して、変わり方のきまりをみつける考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬	
評 価					
(知)・伴って変わる 2 つの数量の関係に着目し、数量の和や差の変化を表に整理することができる。					
(思)・数量の和や差の変化を整理した表を使って考え、きまりを見つけて問題を解くことができる。					
(態)・表を使って考えるよさに気づき、進んで表からきまりを見つけて問題を解こうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	234	○出会うまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決する。	・2 量の和の変わり方に着目して解く問題（出会い算）	(思判表)変化する数量の和に着目し、きまりを見つけて解決している。《発言・ノート》
	2	235	○追いつくまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決できる。	・2 量の差の変わり方に着目して解く問題（追いつき算）	(思判表)変化する数量の差に着目し、きまりを見つけて解決している。《発表・ノート》

活 わくわく算数ひろば					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●算数ラボ	1	236～237	○直進と回転の命令を組み合わせ、正多角形を作図するプログラムをつくることができる。	・正多角形を作図するときのプログラミング	(態度)プログラムをつくることに関心をもち、いろいろ試しながら取り組んでいこうとしている。《観察・発言》 (思判表)正多角形の外角に着目すればよいことに気づき、回転角の大きさを考えている。《観察・発言》
●みらいへのつばさ	2	238～239	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、食料自給率についての問題を解決できる。	・表やグラフなどの読み取り、情報選択（みらいさんの食料自給率についてのメモ）	(知技)文章、表、グラフから問題を解くのに必要な情報を選択することができる。《発言・ノート》 (思判表)文章、表、グラフを関連づけて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	240～241	○食料自給率の課題を話しあい、課題解決に向けた計画を考える。	・食料自給率を高める計画を立てる活動	(態度)算数で学んだことをいかして、自身の生活や地域社会のことを見直そうとしている。《観察・ノート》

＊ もうすぐ 6 年生（5 年のふく習）					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	242～243	○5 年生の学習内容の確認と持続	・復習	
	2	244～245			
	3	246			

★ 学びのサポート		
ページ	学習内容	指導時数
248～255	・じゅんぴ	
256～279	・もっと練習	
280～301	・算数資料集	

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。